



# COOP JOSO News Letter

常総生活協同組合  
発行 / 生協広報G

【ものづくり・人づくり・地域づくり】2018 年度活動テーマ ～素材を活かしてわが家の味～

## 「フードバンクちば」との連帯活動

### 飲料用水 220 箱を福島県飯館村へ届

# けてきました!!



2018 年 11 月の予定

#### ●生協基幹運営／地域活動・催し●

- ・ 11 月ゴントの丘「常総っこ応援団」は毎週木曜日活動しています。試食会は 11 月 25 日に行います。
- ・ 11/3 (土) 常総生協まつり (生協本部)
- ・ 11/5 (月) 脱原発とくらし見直し委員会 (生協本部)
- ・ 11/6 (火) 私たちのくらしと憲法 (生協本部)
- ・ 11/9 (金) ニッコー工場見学
- ・ 11/11 (土) 鈴木牧場産地交流会
- ・ 11/16 (金) 歴史を学ぼう - 未来のために
- ・ 11/17 (土) ラード作り講習会
- ・ 11/24 (土) 高柳さんのれんこん産地交流会
- ・ 11/28 (水) 定例理事会

#### ●提携・協同・連帯企画●

- ・ 11/17 (土) ミニマルシェ@サンフル
- ・ 11/21 (水) 茨城県連理事会
- ・ 11/25 (日) あいコープふくしままつり
- ・ 12/1 (土) GMO 全国フリーゾーン全国集会プライベート@成田

## フードバンクちばとの連帯活動（2018.10.16）

余った食べ物を色々な方や企業から集めて、生活が困窮したり食べ物に困っている人に配布をしているフードバンク活動。常総生協とは過去、福島支援、常総水害、岩泉水害、熊本震災の際に「フードバンクちば」と連携して物資の配布などに取り組んできました。今回は東京にある東亜建設工業株式会社本社より、フードバンクちばに災害備蓄用飲料水 220 箱（賞味期限 2018. 12）の提供の話があり、フードバンクちばから常総生協に福島に水を運んでもらえないかの打診がありました。

当日フードバンクちばから榎本さん。常総生協からは増本理事長、佐藤副理事長、伊藤専務、菅（総務 G）が参加し、総勢 5 名体制で行ってきました。

福島の原因事故被災地では、放射能に対する不安から飲料用水にミネラルウォーターを利用

する人が多く、自己負担で購入されています。フードバンクちばでも、今まで相馬の保育園、南相馬の障がい者施設、飯舘村の村外避難されている住民のみなさんなどに飲料水を相当量運搬してきました。

今回のミッションは、水 220 箱が常総生協に送られてくるので、それを飯舘村の佐々木千栄子さん宅に届け、そこから避難されている村民のみなさん（20 世帯ぐらい）に無料配布してもらいます。

また、少し寄り道も計画し、障害者福祉事業として農地と直結している直売所「こころん」、人参ジュースでもお世話になっている二本松有機農研の大内さんの所にも寄らせていただき、新たな取り組み始めた「ソーラーシェアリング」（農業とエネルギーの複合事業）の見学をしてきました。

### 当日のスケジュール

7:00	常総生協出発 常磐道⇒磐越自動車道⇒小野 IC⇒あぶくま高原道路⇒矢吹 IC
11:15	福島県泉崎村 直売所「こころや」視察&昼食フェルト 2 箱を搬入
12:30	「こころや」出発 東北道 矢吹 IC⇒二本松 IC
13:30	二本松有機農研 大内さんソーラーシェアリング見学
14:15	大内さん宅出発
15:00	福島市内 佐々木千栄子さん宅訪問 飲料水を搬入（借り上げ住宅の村民向け 70 箱）フェルト 2 箱おろす
16:00	飯舘村へ 社会福祉協議会にお水を届ける 飲料水を搬入（社協が希望者住民に配布 150 箱）飯舘村経由にて岐路へ常磐道 南相馬 IC

## 障がいがあるなしにかかわらず、誰もが安心して暮らせる地域社会を目指して

最初に社会福祉法人「こころん」にフェルトを届けに行き、その足で直売カフェ「こころや」に寄らせていただきました。「こころん/こころや」は、主に精神障がいを持つ方が住み慣れた地域で就労を実現できるよう、農業や里山再生といった地域の資源を活かしたシステムを築き上げ、総合的できめ細やかな就労支援事業を行っています。【その人らしい地域での暮らしを支える】を理念に掲げている社会福祉法人です。

今回直売カフェ「こころや」はお店の周りに畑を借りて、農業をゼロからスタートした



の資源を活かしたシステムを築き上げ、総合的できめ細やかな

そうです。始めた当初は「一人で大変だった」と、こころんファーム農場長の関根さんはおっしゃっていました。周りの農家の人たちにも支えられて10年間。今では、直売カフェの店頭とカフェへ出荷しており、生産-加工-販売までの一貫生産体制になっています。農場スタッフ、直売カフェスタッフも障害をもっている方たちですが、笑顔がとても素敵で、いきいきと働いている姿がとても印象的でした。まさに農福連携が確立されている場所に感じました。

常総生協も多様な働き方、働く協同の場を実現し、笑顔でいきいきと地域に元気を発信していく生協を改めて目指したいと感じました。

直売カフェでお昼を頂きましたが、とてもおいしく、ボリュームも満点で最高でした！(^\_^)!

## 二本松有機農研 大内さんの挑戦!!

### ○2011年絶望の中から大地を信じて

生協の生産者でもある二本松有機農研 大内さんは東日本大震災後の福島第一原発事故の影響で、提携利用者が6割減少したとのこと。その当時の大内さんの心境はとても辛く、厳しい事だったと思います。そうした中でも大内さんは「福島の大地を守り、福島で生きる。それが私に与えられた神様からの試練だと思う」と、仲間と共に二本松に暮らし、耕し続けることを選びました。

大内さんは学びを深めるうちにドイツのように自分たちで使うエネルギーは自分たちで作らなければ、いつまでたっても原発はなくならない」と強く思うようになり、二本松有機農研だけでなく、各NPO法人や、白鷹ノラの会などつながりのある団体、生産者と協力し合い「エネルギー部会」を立ち上げ、この2年間ドイツへ勉強しに行ったり、様々な取り組みをしてきました。

### ○仲間と共に夢に向かって農業と、エネルギーの複合事業「ソーラーシェアリング」!!

太陽光パネルを農地に立て、その下で作物を育てていく「ソーラーシェアリング」。日本各地でソーラーパネルがここ近年設置されるよう

になってきました。大内さんの考えは、「みんなの協同の力で、福島を日本一安全な農産物が作れ、エネルギーも自給できる地にすること。これが私たちの夢です」。この考えにとっても感銘を受けました。地域資源を有効に使い、協同組合の精神で取り組んで、地域の自立を目指せば福島の再生は可能だと、強く思いました。



### ○福島をあきらめない!!

私たちは、震災、原発事故を忘れない!! これからもそこで暮らす人々の想いをのせた商品を利用していく事で、正面から被災地と向き合っていきましょう。

## 飯館村へ 220 箱の水を届けてきました。

最後に、今回のメインミッションである飲料水 220 箱を届けに飯館村に向かいました。実は 2016 年 1 月 17 日にも同様にフードバンクちばと連携してお水を運んだことがあり、今回も飯館村の顔ともいえる佐々木千栄子さんの所に持っていき、社会福祉協議会に連絡していただいで運んできました。

### ○飯館村のお母さん 佐々木千栄子さん

千栄子さんは飯館村が合併論争の末、合併せずに自立の道を進むことを選んだとき、村おこしの役に立ちたいという想いから、どぶろく特区の認定を取って原材料からどぶろく作りを始めたそうです。

また女性としても自立もせねばと、還暦を迎え、「農家レストラン気まぐれ茶屋ちえこ」を立ち上げて、村に来る方たちへ自宅の畑や山で採れる旬のおいしい田舎料理でおもてなしし、喜ばれていたそうです。

癌を患ったこともあったけれど、それも笑い飛ばし、朝から晩まで働いて、みんなに喜ばれることがしあわせだという元気者のかあちゃん、村でも有名でした。そして、原発事故で全村避難。千栄子さんも福島しないに避難しています。

2 年前に訪れた時、実家に戻ってきたような感覚になり、プライベートの悩みを自分の母にしているようにお話をさせていただいた記憶があります。今回もお会いした時に顔を覚えていただき「良く帰ってきたな～」とおっしゃっていただき、とても嬉しく感じました。



お水を渡す増本理事長（左）と受け取る佐々木千栄子さん

### ○までえのおもてなし

前回訪問した際、千栄子さんは自慢の手料理、福島名物「いか人参」と大根と鶏の煮物、舞茸のおこわでおもてなしをしてくれました。そして今回はおでんと、栗ごはんでおもてなしをしてくれました。来てくれるのが楽しみで、前の日から仕込んでくれていたそうです。台所で、

千栄子さんがこのおいしいご飯をまでえにつけてくれている様子が目に浮かびました。

### ○飯館村社会福祉協議会へ水を届けに

千栄子さんのおかげで役場に水を届けに行く事が出来ました。「お水を持ってきました」と社協の職員さんに伝えると「えーうっそー!! ありがとうございます〜!(^^)!!」と大変喜ばれました。

震災当時に水を買って求めるお母さんたちがスーパーへダッシュしていた光景を思い出しました。今回の活動は色々な企業、協同組合が連携して動いています。そこには利益追及という考えはなく、自治・自立を持った「たすけあい」の精神が動かしているのだと感じました。



### ○福島の人たちと共に

常総生協は生活協同組合として福祉や長期的な支援へもっと積極的にならなければと実感しました。

未だ、福島には報道されていない本当の実態や、問題点が山積みです。見せかけの税金を大量投入した道の駅や、公共施設なんかではごまかせない人の心の闇があります。

道の駅に飾られている福島に住む人たちの笑顔の写真があります。その笑顔の背景には人のつながりや、想い、愛情、様々なドラマがあったにせよ乗り越えてきた意味の深い笑顔に感じました。

故郷を離れなければいけなかった人、頭では避難した方が良いのはわかるが、その土地に想い・愛着があって残っている人。この人たちの存在を忘れない。そう感じさせてくれた連帯活動になりました。

私たちは福島の人たちと共につながって、再生への道をあきらめず、福島で起きたことを繰り返さないようにしていく事。

生協まつりでは復興ブースを立ち上げて、伝えていきたいと思います。

(文責：専務理事 伊藤 博久)